竹馬、コマ回し、笑顔と歓声あふれるテラスでの遊び

「節分」の豆まき。立春・立夏・立秋・立冬の前日が節分ですが、季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立てて邪気(鬼)払いをする昔ながらのしきたりです。特に春を迎える節分は昔から大切にされてきたそうです。幼稚園でも七輪でイワシを焼き、豆をまいて鬼払いをしました。

春は名のみの風の寒さや（早春賦より）と歌いますが、子供たちの笑顔もほころんで見えるような気がするこの頃です。もう、すぐそこに春は来ているようです。園庭の紅梅のつぼみが膨らみ、花が咲き始めました。

笑顔が咲き、花が笑う…　「咲」は「笑」の古字だったそうです。

# 風の子便り

KAZENOKO DAYORI

滋賀大学教育学部附属幼稚園

ともだち

## たのしい！うれしい！「生活発表会」

１月は行く、２月は逃げる、３月は去る…。走るように過ぎていく日々。すみれ組からスタートした生活発表会も折り返し地点です。

**３歳児**：友達や先生と一緒に繰り返し楽しんできた遊びを、保護者の皆様の温かいまなざしの中で存分に楽しむことができました。

**４歳児**：お話の世界を楽しみ、自分なりになりきって表現したり、やりとりを楽しんだりして友達と一緒にすることのうれしさや、一体感の心地よさを感じているようです。

**５歳児：**自分たちでお話を作ることを楽しみ、工夫して表現したり、力を生かしあったりしながら、つくり上げていく喜びや達成感を味わってくれることだと思います。

**一人一人が自分らしさを安心して出すことができる。友達との関わりの中で自分の力を存分に発揮できる。きっとそんな喜びにあふれる発表会になるのだろうとわくわくしています。**

だいじ

## 渡り鳥「ツグミ」に思いを寄せて

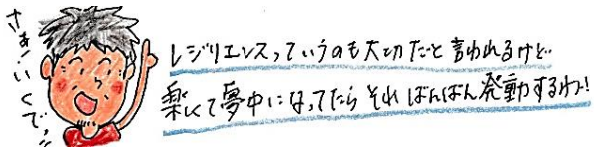
毎朝なぜか花壇の土が荒らされていることを知った年中児。タヌキか、モグラか、はたまたハクビシンかと、知識を総動員して犯人を捜す。

ビオトープの観察用に購入したセンサーカメラを使ってみると…。「これや！」謎の鳥が花壇で土をついばむ様子がしっかりと映っていました。

図鑑で特徴を調べてみると「ツグミ」という野鳥だということがわかり、土の中の虫を食べることや、冬の間だけ日本にいる渡り鳥だということもわかりました。さて、どうする…。

調べるほどに生態に興味をもち、愛着をもちはじめた子供たちと担任。**「春になったら違う街に行くのなら、もう少しそっとしてあげてもいいかも…」**とのこと。追い払うならそりゃぁ案山子だろっ！！なんて意気込んでいた私…。あぁ、恥ずかしい…。そしてうなだれる私の横で**「モグラさん、疑っちゃってごめんね」**と、どんぐりを入れた器をそっと花壇に置いているＡ君。あぁ…なんてステキな感性なのでしょう…。

多様な生命との共生・共存に思いをはせることの大切さをまた一つ勉強しました。




## ～副園長のおしゃべり～

**「間違っていてもいいから言ってごらん」「失敗してもいいからがんばろうよ」**いや～…やさしく聞こえるけれど、暗に「正解と成功」を求めている気がするのは私だけ？さて、園での長縄跳び遊びはじつに創造的である。それぞれが自分たちで考えた跳び方で楽しんでいる。周りながら・手を叩きながら・スキップしながら・二人で前後を入れ替わって！並んでいる間も友達の様子を見て考えていることも楽しい。**よりよい未来を思い描き、創造と失敗を繰り返す行為が『遊び』。**そして遊びは創造性・感性・想像力・行動力・知恵など未来を創る力を育むだろう。未来って、３分後だったり、３日後だったりいろいろなのだけれども、縄跳び、竹馬、コマ回しなど、うまくいかなくてもやり続け、楽しさを追いかける子供たちに**「なんぼでも失敗したらええよー！」**と、笑顔で声をかけていきたい。

かんがえる
くふうする

## 季節のアルバム

思いがけず四季の様子を映し出してくれる冬のビオトープ。生き物はいませんが、氷が張ったり霜柱が立ったり、多くの気づきが生まれます。

雪が積もった築山でそり遊びと思いきや、そりの代わりにしているのは、掃除道具の「手箒」（てみ）上手に考えるものです。

いよいよ発表会間近…。ですが、毎日楽しい年少さん。はやく自分の順番がこないかなぁと楽しみにしながらニコニコして待っています。

風船を使って羽子板遊び。カラフルで、風船の動きもおもしろくてそれなりに続く。楽しい遊びは、道具を使う大切な運動遊びの一つ。

節分行事。副園長先生が炒っている豆から香ばしいにおいが漂います。「こんないい匂いなのに苦手だなんて！鬼が信じられない！」と。

そして、たからのもりで豆まき。「急にオニが出てきたらどうする…」「ぼく、夜にホンマのオニがいる神社に連れていかれるねん…」…あの神社。

人生の中で/誰もが一度だけ詩人になると/聞いたことがあった/生まれてくるこどもの名前を考えるときである　平川克美　朝日新聞　折々のことば　より
今まさに生まれ出ようとしているものに、幸あれと祈りつつ名を与える・・・わが子がどんなふうに育つのか育てたいのか、願いに触れる・・・　確かに「明」ね。ありがと。

お名前 _____

たくさんの返信をいただきました。ありがとうございました。
育てたように子は育つ、そして願ったように子は育つ。きっとそうだと思います。
いつか、皆さんの願いが子供たちに届きますように・・・。